

番所跡と手習所

1611 年頃に尚寧王が各間切(市町村)に番所(役所)を設置し、南風原間切番所は宮平に置かれました。

宮平がドウ(中心)と言われるゆえんです。その後1898(明治31)年に間切役場、1908(明治41)年に南風原村役場と改称され、沖縄戦で行政機能が停止する1945(昭和20)年3月頃までその役割を担っていました。現在その跡地の一部には町立保育所が建てられ、地中には古井戸や石畳、排水溝など番所時代の遺構の一部が保存されています。推定樹齢300年以上のフクギ並木がその名残りで、町の天然記念物に指定されています。また番所と番所を結ぶ街道、幹線道路を宿道といいます。東風平、具志頭に至る、島尻方東海道といい、南風原番所は1番目の番所になります。

1868(明治元)年、仲村渠筑親雲上が首里奉公の中で覚えた学問を地元の子どもたちへ教えるためムラヤー(公民館)に手習所を創設し他のが学校の始まりで、南風原町における教育の発祥の地としても有名です。



善縄御嶽

ウガンモーと呼ばれ、宮平の村づくりをした善縄大屋子が居住したと言い伝えられる善縄御嶽があり、後方にはそのお墓もありましたが、整備の為に敷地は均され1949(昭和24)年、戦災で破壊された御嶽3ヶ所、字内の拝所9ヶ所、カー(井戸)5ヶ所の神々を一ヶ所に集めウカミヤーとして移設し合祀安置されております。

善縄嶽伝説



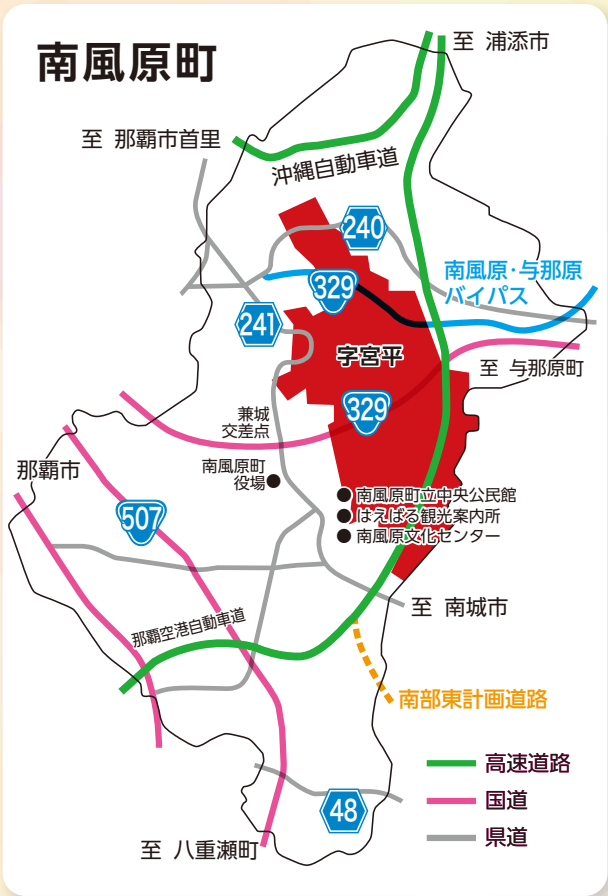
宮平に善縄大屋子という農夫がいました。大屋子は余裕に漁に行きました。ある日漁に出ると大きな亀が海中から浮かび上がり、驚いていると、どこからともなく婦人が現れ「汝亀を背負うて家に帰られよ」と言って消えてしまいました。大屋子はさっそく亀を背負って家路を急ぎましたが、途中亀が暴れ出し背を噛み大怪我をしてしまいました。気絶した大屋子は倒れたまま息絶えてしまい、村人は嘆き悲しみ手厚く葬りました。死後3日後墓参りの際、棺を開けてみると遺体はなくなっていました。驚いていると「大屋子は死んだのではなく、神に召されニライカナイにいったのだ」という天の声が聞こえてきました。それから村人は大屋子の屋敷を「嶽」として祀るようになりました。



(「遺書説伝」より)

宮平プロフィール

人口(男)… 3,669 世帯数… 3,072
(女)… 3,883 面積… 163.11
合計… 7,552 2025(令和7)年11月現在



作成：南風原平和ガイドの会 (2011年)
発行・改訂 一般社団法人 南風原町観光協会 (2025年)
住所：沖縄県島尻郡南風原町字本部158番地
電話：098-851-7273 FAX：098-851-7109
メールアドレス
chiiki-machidukuri@haebaru-kankou.jp
ホームページ
https://www.haebaru-kankou.jp



宮平の芸能

王府時代に王と同席して三線を習うことを許された宮平ウファー(人名・屋号・上門)が芸能を広めました。その影響で三線弾きや舞踊家が数多く輩出されています。

旧暦8月15日の夜遊びに演じられる演目の中心は、獅子舞や御冠船踊りの手だと言われ古典女踊りが主役となっていたようです。

獅子舞の獅子は宮平ウファーが王府勤めのとき拝領されたものでしたが、獅子は沖縄戦で行方不明になり、ハワイ移民していた赤嶺登助氏が制作したものを1950年に譲り受けました。現在の獅子は3代目です。

大きなお祝いがある時は、道ジュネーを行います。猿小二人と獅子歩きを先頭にガク・三線・ドラ・太鼓の順に歩きます。

獅子舞には7つの手があり、カクジシリーなど難しい技もあり、町指定無形文化財です。

総掛 (町指定無形文化財)

宮平と総掛は「干瀬節」「七尺節」「サアサア節」の三曲となっており、古典女踊りの伝統的な型を受け継いでいます。



ふーばらのドウ！ 宮平 なーでえら

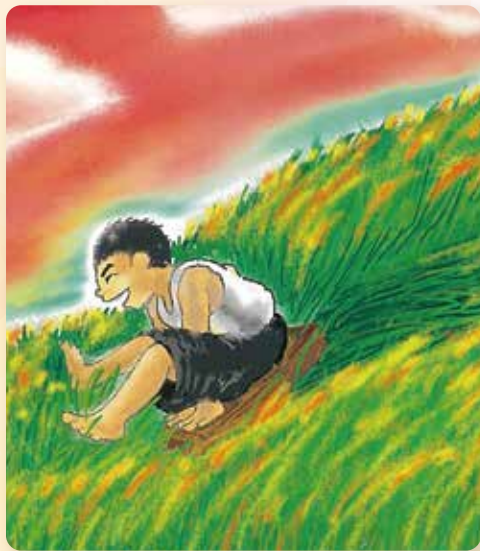


一般社団法人 南風原町観光協会

ワラビンチャー(子ども達)の遊び

二本松の東川に形の整ったきれいな丘がありました。その丘は富士山に似ていることから富士山小と呼ばれていました。松やソテツなどがあり、広場は芝生になっていたそうです。西側の傾斜面には茅が生い茂り、よく子ども達が板を持って、シンリエ小(滑降)をして遊んでいました。ここでは、村運動会や角力大会なども開催されていました。

またメーガーラ(宮平川)とクシガーラ(国場川)のクムイ(水たまり)は子供たちの水遊びの場所で、エビやカニを捕って楽しんでいました。



ムーセーター(若者)は力勝負

ムラヤー(公民館)にはサシ石(力石)があり、「ウムカシグワー」、「ムラー(ムリーイシ)」、「ウマヌミチ」、「シンイシ(イチパンイシ)」という名前がついていました。「ウマヌミチ」は馬蹄形をしていたそうです。一番重たい石で135斤(約81Kg)もあり、若者たちが力勝負をしました。

12 なーでえらシーサー館

旧宮平公民館は老朽化の為、平成28年(2016年)8月1日に旧保育所跡地に「宮平獅子舞・伝統芸能保存継承資料館」として新しく建立され、自治会事務所も同一箇所に移転致しました。

11 二本松 ターチマーツ

富士山小の西側に松の木がありました。二本あったのでそう呼ばれていましたが、一本が枯れてもそのままターチマーツと呼ばれていたそうです。現在の松は戦後植えられたものです。



10 アガリガー

集落の最西端にあり、周辺の家はここから正月の若水や産湯を汲んで使いました。



9 ナカントゥモ

丘の上に石積みの拝所があり、宮平に最初に来たヘーマチガニーという人を祀ってありました。東大城門中の祖先が居住していたと伝えられています。現在では森は敷きならされ、拝所は善縄御嶽に合祀されています。

8 番所跡 バンジョアト

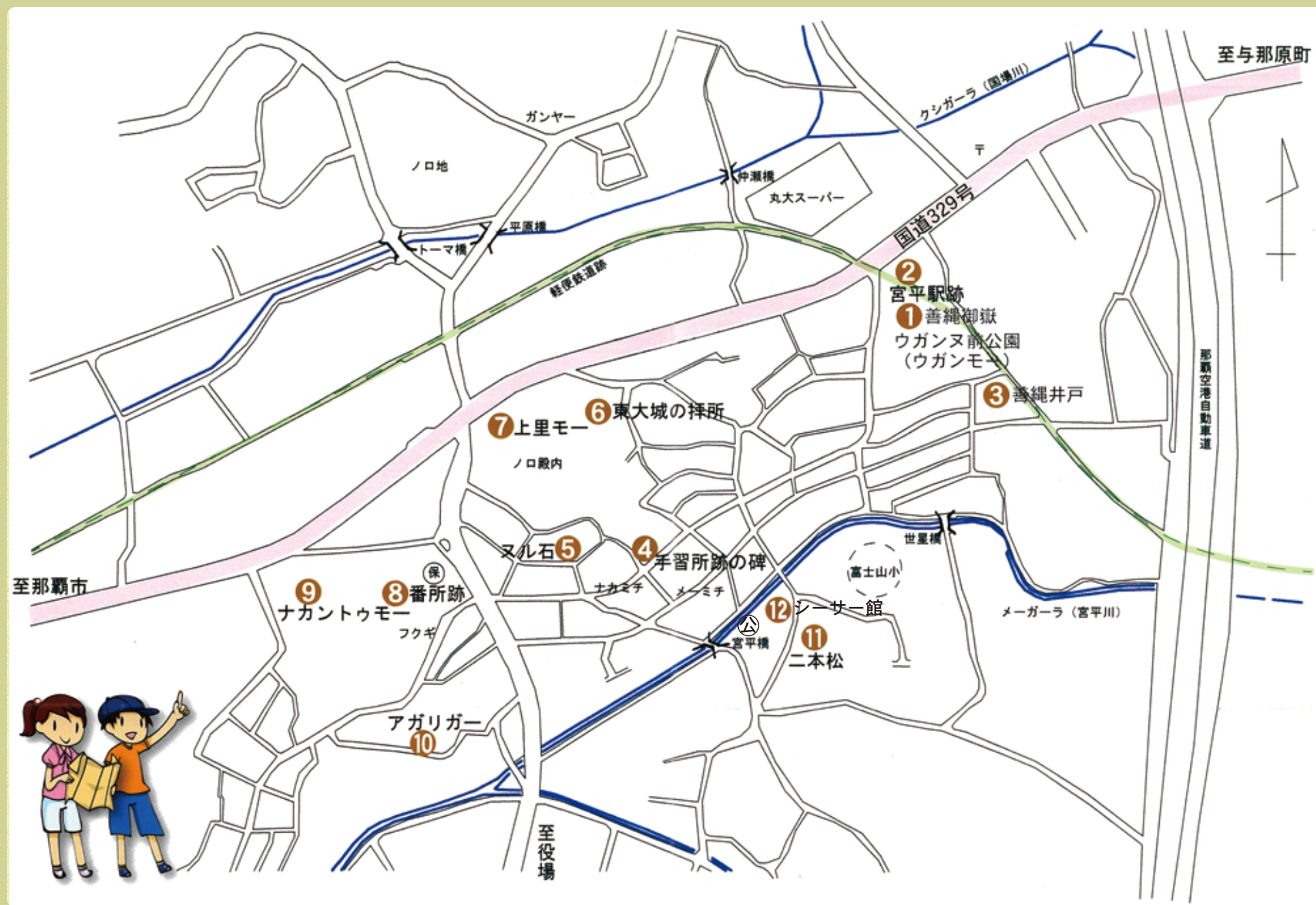
1611年ごろ、尚寧王が設置した南風原間切番所の跡です。

***フクギ**

町指定天然記念物。推定樹齢300年の老木が今も残っています。



宮平まーい



1 善縄御嶽 ユクチナウタキ

ウガンモーに建立されています。1949(昭和24)年字内の御嶽、拝所、カーの神々を集めウカミヤーに仮安置されています。現在のウカミヤーは2000(平成12)年に建て直したもので、改修前には、御嶽の後方に善縄大屋子(ゆくちなうふやく)の墓があったそうです。



2 軽便鉄道宮平駅跡

1914(大正3)年にできた軽便(沖縄県営鉄道)与那原線宮平駅がありました。

無人駅で、駅の横に踏切があり、軽便が通る時、踏切番が手で遮断機を下げ、通り過ぎると遮断機を上げました。

3 善縄井戸 ユクチナガー

善縄御嶽の東南方向にあります。おいしい水が湧き、干ばつでもかかれることなくウプガー(産井戸)やワカミジ(若水)として利用されました。かつては神ガーとも言われていました。



4 手習所 テナライジョ

1868(明治元)年、ムラヤーに手習所を創設しました。記念碑は1978(昭和53)年、当時の公民館の庭に建立されました。



7 上里モ (ウェーサトゥモ)

小高い丘で殿内(トゥンチ)と呼ばれる拝所があり、瓦ぶきで中には3つの石と香炉が置かれていました。

旧暦6月26日には、雨乞いのアミシの御願をしました。

6 東大城の拝所

東大城門中の先祖の居住跡、宮平の宗家(ムートゥヤー)の一つです。現在も屋敷跡に位牌を祀る建物があります。

正月、お盆には字の役員が拝みにいきます。



5 ヌル石

ノロが馬に昇降する際に足をかけたヌル石が(屋号：山口)の屋敷囲い沿いに残っています。ノロは代々(山口)から輩出されていました。現在はシーサー館で獅子を保管していますが、かつては(山口)がその管理を担っていました。

